

2022.03.16

国語は難しい

小3の国語の授業で、小説の読解の話の中に、

「つくだに」が出てきました。

もちろん、小3なので、佃煮と漢字ではなく、ひらがなで

「つくだに」

でした。

太郎はごはんにつくだにが入っているのにきづき・・・

読点がないので、どこで区切るか、

ある生徒は、

「太郎は ごはんにつく だにが・・・」

いやちがう

ごはんにダニはつかない。

ついたとしても小説に書かない。

いやむしろ、ごはんにダニがついても見えない。

太郎の視力はいくつなのでしょう、

顕微鏡並みの視力で、ご飯につくダニを見つけたのですね。

すごいですね、アフリカのサバンナで育ったのでしょうか。

いやちがう

「つくだに」ですよ、

と言っても、小3の子たち、佃煮を知らない。

「つくだにってなーに？」

そうなりますね。

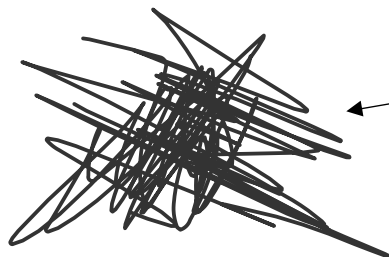
えー、つくだには・・・

小3にわかるように説明できない。

あの、ごはんですよ、って知ってる？

「知らなーい」

はい、詰みました。



こんなやつです